

## 陽風語録

よき考えや、よき知恵を  
生み出す人は、同時に、  
よき学び人でもある。



2月2日 節分祭  
(陽風園講堂にて)

## 美しき川の流れ

理事長 奥 清

今日も元気で陽風園へ出勤できます。  
車窓から見えます医王の山並もはだら雪となり、春の装いを始めたようです。毎日の暮らしにも、不思議な出会いに満ちていることに気づきます。

春の陽は、厳しかった冬の雪に清められ、生まれたばかりのようにきらきらと輝き透明に見えます。地の面の万物も、春の鼓動に両手を上げて応え始めたようです。

清き流れの犀川に架かります大桑橋を渡ります。そのたぎに川面が光る悠久の流れは人生の教訓を教えてください。

「流れる水は凍りません。流れる水は腐りません。それは川が生きている証です……と。」

また、滝に怯むことなく岩に砕けることなく、後を振り向かずしっかりと前を見つめ、上から下へと逆らわず、力強く流れ続けるのだ……と教えてくれます。

さらに、田畑を潤し、作物を実らせ、魚を育てて喜ばせ、決して高きを望まず、低い方へ低い方へと流れあまねく地の面の全てに恵みを与えています……と。」

三月の雪解け水は躍るように若々しくて力強い。川にも心があるようです。悠久の流れを見つめていますと我が心が洗われます。

その日その日の色を見つめ、その日その日の音に耳をすましていますと、毎日の暮らしにも不思議な出会いに満ちていることに気づきます。自然がくれました感動を人生の糧に分ちあえますように……。

## 新体系移行にあたり

常務理事兼ハビリポルト若葉施設長 池之上 幸男

1月は10年ぶりの大雪でした。雪中に立つ落葉樹は寒々見えませんが、枝の木の芽は膨らみ春を迎える準備は万全のようで、我々も10月の障害者自立支援法のサービスティ系への移行を、着実に進めなければと思った次第です。2年後廃止予定の法律で少々割り切れない気もしますが…。

陽風園の障害者福祉事業は知的障害者を対象として、「ハビリポルト若葉」(定員210人)の入所支援、「あけぼの作業所」の就労支援のほか、「スターツもみじ」などグループホーム3棟での地域生活支援を行っており、各施設は整備されたそれぞれの時代の障害者支援のあり方や利用者ニーズ等必要性を踏まえ整備され、与えられた役割を着実に果たしています。平成7年に知的障害者更生施設として開設された「ハビリ」は、私生活の充実を図るため、生活棟はリビングを中心に個室を配したユニット型でプライベートと交流の空間を確保するとともに、日中は働く喜びを感じ生活のリズムを確立で

きるよう、朝、居住棟から出勤して屋外の畑や別棟の作業場で作業に従事できるようになっています。また、自立した地域生活に向けた訓練を行う一戸建ての自活訓練棟を設けるなど、現在の障害者自立支援法の理念にも通ずる考え方で整備された入所施設であると思います。

今後の生活場所について利用者及び保護者の皆さんの意向を伺いましたら、ほぼ全員引き続き「ハビリ」で生活したいとのことでありました。平均年齢が60歳となり体力の低下が見える利用者さんも増え、生活支援+介護へ、また、ご両親の高齢或いは不在で成年後見を要する方が増えるなど、高齢化重度化に伴うハード及びソフト両面の改善が必要となっています。今年度、移行時の基盤整備補助金を活用し、畳部屋のフロアー化などバリアフリー工事を行う予定ですが、見守りや援助技術の充実・向上に加えマンパワーの充実も課題となっています。

障害者自立支援法は、障害者が

自分の住みたい場所で生活することを理念の一つに掲げ、グループホームや就労支援施設等の整備促進を図る一方、入所施設は障害程度区分4以上の重度の方のものとなり(経過措置で現入居者は区分3以下でも引き続き利用可)、職員配置基準や報酬は「ハビリ」のような大型入所施設により厳しい仕組みとなっており、その意図を感じる訳であります。しかし、家庭や地域での十分な支援が得られず困っている方もあり、入所や見学の問い合わせも少なくありません。今後そのような人たちが自ら選んだ入所施設において必要な支援が受けられるよう、さらなる基準や報酬等の見直しを求められています。

現在、国の障害者制度改革推進会議においては、障害者自立支援法に替わる障害者総合福祉法の平成25年制定に向け検討が行われており、6月には法案の骨格整理が始まるそうですが、その地域移行の議論の中で、「全ての入所施設をなくし、地域での福祉サービスにお金をまわしてほしい。親が負担するのではなく、自分はどこに住むか誰と住むかを含めて、必要なサポートを受けて自己決定していかないといけない」との意見があ

り、また、全国知的障害者福祉施設協会研修会のある分科会では入所施設も必要という意見を大声で否定する人もいました。地域で暮らす理念そのものは正しいと思いますが、障害者自立支援法が制定直後から改正を必要とし、廃止に至ったように、条件を整備しないまま急激に進めると、戸惑い苦労するのは障害者の方達です。家庭も地域の組織も弱くなっている今、多様なニーズに応える地域生活を支えるサービスティ系を提供する社会資源の整備を進めるとともに、地域の人たちの障害者に対する理解を深める施策の促進が極めて重要と思います。また、到達すべき理想を掲げながら導入する制度の検証を十分に行ったうえで、現実に即して進めていただきたいと思う次第です。

明治6年、園祖小野太三郎翁が目の見えない方20名を自宅でお世話されて福祉事業を開始されたことに思いをいたし、さらに高まるであろう権利擁護や地域移行支援など、総合福祉法の目指すものを踏まえながら、園としての中長期的な障害者支援の在り方について陽風一家の知恵を集めたいと思います。

園 だ よ り

施 設 だ よ り

職員対象研修

〈感染症対策と健康管理〉

陽風園では、それぞれの職場で研修を行っています。幅広の視野と福祉の心を持った職員を育成することを目的に、集合研修の充実を図っています。その一環として11月に、診療所所長の河合医師を講師として研修を行いました。

各施設より所属長推薦の職員22名が参加し、風邪・インフルエンザウイルスやノロウイルスについての種類や、年代別による感染者数・死者数の割合の資料などを参考に説明がありました。また、集団生活は感染しやすいため十分な対応が必要であり健康管理にも気を付けるなど、約1時間の研修は知識を高め再度気持ちを引き締め対応を確認するためにも充実した内容でした。



金沢めぐみ幼稚園訪問

平成22年11月8日、金沢めぐみ幼稚園の園児たちがくだもの寄付に来訪して下さいました。毎年、訪れて頂いており、この時期になると利用者の方も心待ちにしています。



園長先生の挨拶の後、園児たちから可愛い絵の飾り付けをした袋に入った、りんご、みかん、柿や洋梨などたくさんのかだものを頂きました。最初は少し緊張気味だった園児たちもすっかりリラックスした様子になり、和やかな雰囲気の中で交流に利用者の皆さんも笑顔が絶えませんでした。中には、孫の成長に姿を重ね合わせたのか涙ぐむ方の姿も見られました。「元気でね!」「風邪引かんようにね!」と園児たちの乗り込んだ帰りのバスをいつまでも見送る入所者の方の名残惜しそうな姿が印象的でした。

向陽苑

初詣ドライブ

利用者の皆さんから白山比咩神社へ初詣に行きたいとの希望が多かったため、初めて初詣ドライブを企画しました。

当日は、天候次第で中止になるかもしれないとの心配もありましたが、利用者の方々の思いが通じ前日までの天候からは想像もつかない快晴で、まさに初詣日和。「白山さんにお参りに行くのは久しぶりやわ」とか、「雪、たくさんあるやろうね」など、皆さんとても楽しそうに車に乗り込んでいらつしゃいました。



神社に着し、まず向かったのは手水舎で、ひしゃくで水を掬い身を清めました。参拝所までの道のりは、足元もきれいに除雪されており、木々に積った雪が太陽に照らされ、キラキラと眩しいくら

いに輝き、ふと足を止めて空を見上げ深呼吸すると、とても幻想的な気分になりました。そんな思いの中、利用者の方々はどんな願い事をされたのでしょうか。帰りの車中でそっと聞いてみました。家族全員が、いつまでも元気で健康で楽しく過ごせますように…。家族を心配し思いやる気持ちに胸が熱くなりました。

参拝をすませた後は、芳名帳に名前を記入される方や、お守りを購入する方、また、屋台で食べ物を買われたりと、楽しい時間を過ごされたようです。

参加された利用者の方々から、来年も是非、企画して欲しいとの希望がありました。希望に応えられるよう、継続して行きたいと思っています。



施設だより

万陽苑

ゲーム大会

2月9日にゲーム大会が行われました。



今回は「赤組」「白組」「青組」「黄組」のチームに分かれて、4つのゲームの総合得点で優勝が争われました。

最初のゲームは「干支パズル」です。各チーム12人の干支の絵を持った参加者が一人ずつ、職員の持つ12の文字が書かれたパネルまで行き、それぞれの絵を貼り付けて完成までの時間を競うのですが、皆さん早く辿り着こうと懸命に車椅子をこぎ、杖を使い、早足で歩いておいでました。中には職員の上手な絵(?)のおかげで戸惑う方もおいでました。すみません。

次のゲームは「水くみりレー」です。各チーム10名の方が順番にテーブルまで行き、おたまでバケツの水をすくい容器に入れて満杯になるまでの時間を競います。やはり、おたまの扱いは女性の方が慣れているようで一人一杯だけのはずが、ついつい「もう一杯入れさせて」と言われて：我慢していただきました。

3番目のゲームは職員の競技「キャタピラ」です。各チーム職員3人が順番に段ボールをつなぎ合わせた輪の中に入り、四つん這いでリレーしてゴールするまでの時間を競います。利用者の皆さんのそれぞれ自分のチームへの声援も大きかったのですが、日頃見かけない職員のユーモラスな動きにも大きな笑いが起っていました。

最後は全員参加の「玉入れ」です。それぞれの籠の周りを何重にも取り囲み一分間で何個入れられるかを競います。皆さん、手馴れた手つきで玉を投げ入れ、次々と籠に吸い込まれていきます。本当にあつと言う間の1分間でした。

熱気にあふれたひと時が過ぎました。競技の結果、総合優勝は「黄組」、2位は「青組」と「白組」(同点)、3位は「赤組」でした。優勝して喜ぶ方、2位、3位で残念がる方それぞれに笑顔がみられ、会場は穏やかで和やかな雰囲気となりました。

立春を過ぎたとはいえ外はまだまだ寒く凍えるような風が吹いています。皆さんがこのままお元気で暖かい春を迎えていただけるよう職員一同気を付けてまいります。



第二万陽苑

初釜

初釜とは、茶道の稽古始めにあたる日を指している、茶人は元旦の朝に初めて汲む若水で釜を開き、新年のあいさつが済んだ10日頃にお客様を招いて、その年始めてのお茶をふるまう事です。

第二万陽苑でも、5日の午後から初釜を開きました。食堂にある簡易の舞台に毛氈を敷き、素敵な茶道具の棚飾りと新年を寿ぐ大王松と水仙を生け、即席のお茶室を作り、お正月らしい風流な琴の音の中、女性職員は和服に着替え、本日のお客様である利用者の皆さんのお持て成しをさせていただきます。

職員の慣れない手つきではありましたが、点て出しのお抹茶と上生菓子をいつものと違った雰囲気の中で味わっていただきました。利用者の皆さんは、少し緊張気味の中にも、和やかな笑顔で話しも弾み、終始、楽しいお茶会を開くことが出来ました。

陽風園日誌

11月

吉村笑子歌謡ボランティア (陽風園) 報恩講 (陽風園・第二)

紅葉ドライブ (第二・木越デイ)

衛生講座 (向陽・万陽・三陽・あけぼの)

みんなで作って食べよう会

鍋パーティー (万陽デイ・第三デイ)

ピアノ・フルート・歌のコンサート (木越デイ)

三陽祭 (ハビリ)

金大学園祭ツアー (三陽)

卓上献立 (万陽デイ)

作業参観・懇談 (向陽・万陽・第二)

秋の旅行 (あけぼの)

ゲーム大会 (万陽)

ランチドライブ (万陽デイ)

希望者旅行 (第二)

料理教室 (ハビリ)

癒しの香り湯 (向陽)

生活給食懇談会 (木越デイ)

地域清掃ボランティア (第三)

全体レクリエーション (三陽)

未就園児とお父さんの遊ぼう会

おいしいちゃんおばあちゃんありがとうの会

ひなたぼっこ (みずき)

菊川・つつじが丘・内川・崎浦

大桑・十一屋健康づくり教室

(地域福祉)

施設だより

第三万陽苑

年忘れ会

一年の締めくくりとして、12月9日に、くつろぎホールにて年忘れ会を行いました。年忘れ会では、いろいろな楽しみがあります。司職人が目の前で握るお寿司やちらし寿司もその一つで、皆さん新鮮なお寿司に舌鼓をうっておられました。



余興は『あおいの会』の皆様がボランティアで来苑し、あでやかな着物姿で、民謡と華やかな踊りを披露して下さいました。また、金沢港大野からくり記念館において、毎年冬限定で実施している『出前からくり』を初めて依頼しました。これは、交通手段や健康上の理由から、記念館に向いての見学が難しい方々を対象に、江戸時代のからくり技術を披露し

て頂ける企画です。

ぜんまい仕掛けの『茶運び人形』、箱の中身のアメ玉が消える『からくり細工』、



バック転で階段を降りる『段返り人形』を間近で見ることができ、ゆったりとした空気の中、突如現れた愛くるしい人形が醸し出す不思議な世界にのめり込んでいくようでした。職員の余興では、新人職員が歌と踊りを披露しました。男性職員も女装をし、その色っぽい踊りに、大いに盛り上がり、その年にあつた苦労も忘れさせてくれる楽しい行事になったと思います。

これからも、利用者の皆さんに楽しんで頂ける企画を提案して行きたいと思っています。

三陽ホーム

『余技展』出展

毎年秋に、石川県社会福祉会館で『社会福祉施設利用者余技展覧会』が開催されます。福祉施設利用者の方々の余技作品を社会に紹介し、趣味、教養の向上と労をねぎらうという目的で開かれます。

今年度は11月9日から12日までの4日間。当ホームからは8点出展しました。自信作を出展した皆さんは「嬉し、恥ずかし」といった複雑な心境で会場へ見学に向かいました。自分の作品を見つめるや否や、ほんのり笑みを浮かべ、その場を動かない方、会場の隅から隅までくまなく見て回られる方など、様々でした。作品には『県知事表彰』を始めとする賞があり、8点の作品には『努力賞』を頂きました。



皆さんは既に来年に向けての構想を練っているようでした。『県知事表彰』を狙って…。

12月

理事会・評議員会

金沢市長歳末見舞

押野ときわ会大正琴ボランティア

石川県知事歳末慰問

京あすかクリスマスコンサート

末日聖徒イエスキリスト教会

歌とハンドベル演奏 (陽風園)

年忘れ会 (各施設)

ゆず湯 (各施設)

マジシャンイーグルス訪問 (万陽デイ)

金沢市安江金箔工芸館見学ドライブ (木越デイ)

生活給食懇談会 (三陽)

良い年迎えよう会 (第三デイ)

表現会 (みずき)

鍋パーティー

クリスマスバイキング (木越デイ)

クリスマス喫茶 (向陽・万陽)

トナカイ喫茶 (第二)

餅つき・繭玉作り

年末保育 (みずき)

終い湯 (各施設)

菊川・つつじが丘・内川・崎浦・

大桑・十一屋健康づくり教室

(地域福祉)

# 施設だより

## ハビリポート若葉

### 除雪作業

内川地区の冬といえは大量の雪。晴れた日に周囲を見渡せば美しい化粧を施したその姿に思わず見とれてしまうこともしばしば。



冬の風物詩といえはそうなのですが、今年のハビリポート若葉周辺に舞い降りた雪の量はそんな悠長に笑っていられないものに。極端かもしれませんが、外を見渡しても白以外の色が見当たらない位豪快な積もりっぷりでした。当然、屋根雪も相当な量で、看過できない事態となりました。

そこで、施設を守るべく職員が立ち上がり、避難経路の確保、屋根雪おろし、駐車場整備をほぼ毎日行いました。それでも翌朝にはどっさり積もる雪。若干くじけそうになりながらも利用者の皆さんに励まされながら何とかピークを越えることができました。

ある程度の積雪は心身の鍛錬にもってこいなのですが、交通網まで麻痺しない程度にお願いしたいものです。



## あけぼの作業所

### 新年会

1月19日、午前の作業が終わった後、湯涌温泉「さかえや」にて新年会が行われ、利用者の方35名が参加されました。

旅館に着くと、まず、抹茶と菓子でおもてなしを受け、少しかしこまった様子で味わっていました。そして、宴会場に席を移すと、利用者の方の乾杯で幕を開けました。

お膳には新鮮な海の幸、山の幸で調理された彩り良い加賀会席が次々と運ばれ、皆さん「美味しい」と大変満足されていたようでした。特に、ご飯と一緒に出された漬物は、あけぼの作業所で製造されたものに手を加え、綺麗に盛りつけられており、感慨もひとしおのようでした。

その後は、オセロやカルタ等ゲームを楽しまれる方、カラオケで熱唱される方、温泉で疲れを癒す方など思い思いに過ごされました。利用者の皆さんから「雪景色を眺めながら入るお風呂は格別。気持ち良かった」「もつとカラオケ歌いたかった」との声が聞かれ、名残惜しそうに帰路に着きました。

## 陽風園診療所

### 残務整理

診療所の病室部門の廃止は事務方の努力と各施設の御協力で粛々と進んでいる。予想より早く2月中に終わるかもしれない。未封の薬は問屋に引き取ってもらって、診療所の負担を軽くしたい。

問題はタミフルである。一昨年は新型インフルエンザの脅威の程度が判らなくて、医療機関はこぞってストックを増やした。そのため一時市場から姿を消し、入手に困難な医療機関も出た。結局厚労省が乗り出して解決されたが、その間タイムラグがあった。今は新製品も開発され市場環境も変わってきたので返却しようかなと思っている。

ただ2月8日の情報によると、大分県で新たに鳥インフルエンザ(H5N1)が見つかっている。すでに鳥根、宮崎、鹿児島、大分県などで、鶏50万羽以上が処分されたそうである。H5N1が登場して13年は経っている。そろそろ変異して? フェーズIVともなればタミフルの出番は必至だろう。フェーズII? のエジプトではタミフルの効果は大である。陽風園の安心感のために多少ストックしておくべきだろうか?

## 1月

年頭のあいさつ・仕事初めの式

(陽風園)

初湯

初釜

新年会

(各施設)

書き初め

(第二)

初詣

(木越デイ)

保護者総会

(ハビリ)

小中学生との交流会

(みずき)

新春ゲーム大会

(みずき)

民謡唄の集い

(木越デイ)

新春バイキング

(木越デイ)

生活給食懇談会

(万陽)

新春書き初め大会

鍋パーティー

「卯」年干支飾り作品作り

ゲーム大会

(木越デイ)

自治会行事

(万陽デイ)

生活発表会

(三陽)

デザートバイキング

(みずき)

全体レクリエーション

(第二)

菊川・つつじが丘・内川・崎浦・

大桑・十一屋健康づくり教室

(地域福祉)

# 施設だより

## みずき保育園

### 積み木あそび

昨年12月、みずき保育園にサンタクロースから素敵な贈り物が届きました。「いしかわ子育て支援施設等活動充実費」で購入した積み木です。子育て支援室の扉を開けるとそこには子ども五人が入れるほどの大きな積み木のお城がありました。「わあ、すごい」と目を輝かせた子どもたちの歓声が上がりました。

積み木は年齢を問わず、その時の子どもたちの成長に合った遊びが幅広く楽しめる玩具です。物を握れるようになった赤ちゃんは、その木の感触や匂いを感じることができ、次第に両手に持ってカチカチと鳴らして遊ぶことができるようになります。



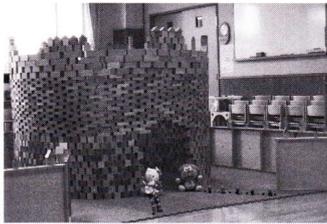
そして、見立てて遊べるようになってくると、さらに遊びの幅は広がり正方形の積み木の一つ一つが人間、動物、乗り物、おうちと色々

と変化して楽しむことが出来ます。年長児になってくると、子どもたちが歓声を上げた大きなお城のように、一つの物を皆で作りに上げられるようになります。この子どもたちの遊びの変化、発展全てに興味があり、様々な点からその時々の子どもの成長を感じることが出来るのです。

各年齢で自由に遊んだり、テーマを決め一斉に楽しんだり、今後は異年齢で遊ぶ際にも使っていきたいと思っており、遊びがどう発展していくのかとても楽しみにしています。

先日は未就園児の触れ合いの会や、小学生との交流の際にも積み木を取り入れ喜んでもらいました。この積み木を通して子どもたちの想像力を豊かにし、異年齢との絆が深まり、また地域の輪が広がれば良いなと思っています。

今は新しくとがっている積み木の角もたくさんの子どもの手に触れ、あつという間に丸くなっているのですね。



## 入園者の変動状況（11月～1月）

施設名	入園者数 (2月1日現在)	入所	退所
向陽苑	239	9	5
万陽苑	178	23	28
第二万陽苑	141	22	32
第三万陽苑	146	21	22
三陽ホーム	104	3	1
ハビリポート若葉	201	1	3
あけぼの作業所	41	0	0
みずき保育園	186	3	1
診療所	2	10	19
合計	1,238	92	111

## 在宅サービス利用状況（11月～1月）

施設名	事業	延人数	
万陽苑	ショートステイ	470	
	デイサービス	972	
	ホームヘルプサービス	319	
	配食サービス	365	
	移送入浴サービス	6	
第二万陽苑	ショートステイ	590	
	ホームヘルプサービス	318	
第三万陽苑	ショートステイ	919	
	デイサービス	639	
ハビリポート若葉	ショートステイ	32	
	日中一時支援	5	
	グループホーム知的障害者共同生活援助事業	1,288	
在宅事業推進局	陽風園生活支援センター	894	
	お年寄り地域福祉支援センターみつくちしんまち	予防プラン	1,224
		介護相談	669
	木越デイサービスセンター	754	
	木越生活支援センター	111	

# 感謝録

11月～1月

(順不同・敬称略)

## ボランティア

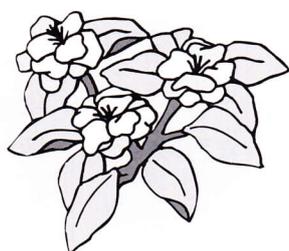
- 末日聖徒イエスキリスト教会 (金沢市)
- 石川県警察学校 (金沢市)
- ひだまりグループ (金沢市)
- カトレアの会 (金沢市)
- 小西さんグループ (金沢市)
- ひまはりの会 (金沢市)
- 新畑ミュージック企画 (金沢市)
- PL金沢南教会 (金沢市)
- 琴修会金沢支部田上教室 (金沢市)
- 合歓の会 (金沢市)
- 葉月の会 (金沢市)
- あおいの会 (金沢市)
- 吉村 笑子 (金沢市) 京 あすか (金沢市)
- 安岡 龍男 (金沢市) 勝尾外美子 (金沢市)
- 尾崎 和雄 (金沢市) 村尾 和子 (金沢市)

## 寄附物品の部

- 西田 幸広 (金沢市) 中山 俊子 (金沢市)
- 伊達 世菜 (金沢市) 永山 瑞希 (金沢市)
- (株)サンライン (金沢市)
- 北陸電力集検労女性委員会 (金沢市)
- 押野地区ときわ会 (金沢市)
- 美川婦人会 (白山市)
- JA石川県女性組織協議会 (金沢市)
- 金沢めぐみ幼稚園 (金沢市)
- 石川県花商事業協同組合 (金沢市)
- 西野 宏 (金沢市) 林 信一 (金沢市)
- 西田 将機 (白山市) 内田 文子 (金沢市)
- 杉本 敏子 (金沢市) 亀田 泉 (加賀市)

## 寄附金の部

- 菊川社会福祉協議会 (金沢市)
- 末田佐智子 (金沢市) 山本外喜子 (金沢市)
- 河上 進 (金沢市) 庄田 邦彦 (金沢市)
- 宮嶋 通全 (金沢市)



その他匿名 二十五名

ご厚意ありがとうございました。